

『古代アメリカ』13, 2010, pp.31-40

<調査速報>

先コロンブス期アメリカ大陸史に関する世界史教科書問題

青山和夫

(茨城大学人文学部)

多々良穂

(東北学院榴ヶ岡高等学校)

坂井正人

(山形大学人文学部)

井上幸孝

(専修大学文学部)

吉田栄人

(東北大大学院国際文化研究科)

1. 高等学校世界史教科書における先コロンブス期アメリカ大陸に関する記述の改善

先コロンブス期アメリカ大陸で成立した古代文明に関する研究は、従来の「四大文明」・西洋中心的な文明史観ではない新しい歴史的知の構築に大きく貢献する。ところが、先コロンブス期アメリカ大陸で盛衰した諸文明は、商業主義的な利益を優先するマスコミによってしばしば「謎と神秘の文明」というレッテルを貼られている。「謎と神秘の文明観」は、社会的要求の交差点として、多くの日本人に好んで消費されてきたことも事実であろう。しかし消費者の需要に応じて商品を提供する形で、「学問的な謎」ではなく「捏造された謎」を煽り立てるテレビ番組、映画、一般書や雑誌が繰り返し制作されてきた側面は見過ごせない。今なお学術研究と一般社会のもつ知識の乖離は大きいと言わざるを得ない。このことは、質量共に貧弱な高等学校世界史教科書における先コロンブス期アメリカ大陸の記述に端的に表れている〔青山 2007, 2009; 多々良 2005〕。高校生の学習の負担を増加させないためにも、教科書における記述量を増やすのは今すぐには難しいだろうが、内容に関する明らかな誤りを教科書会社に指摘することは可能であろう。

本誌 12 号の調査速報に記した通り、2008 年 12 月 6 日の古代アメリカ学会総会において「学術情報の普及に関する戦略ワーキンググループ（以下 WG）」が発足し、高等学校教科書問題をはじめマスコミ報道の改善と対応、研究成果の一般社会への還元などを検討した〔青山他 2009〕。2009 年 12 月 5 日の古代アメリカ学会総会において、古代アメリカ学会役員会に答申案を提出後に解散した WG の活動は、青山和夫（メソアメリカ考古学・マヤ文明学）、吉田栄人（マヤ民族学）、坂井正人（アンデス考古学）、井上幸孝（アステカ史）、多々良穂（マヤ文明学）という同一メンバーで組織

する「学術情報の普及に関する戦略検討」班に引き継がれた。同班のメンバーは、高等学校世界史教科書における先コロンブス期アメリカ大陸の記述を改善するために、多々良が作成した教科書データベース（エクセル）をもとに現状の正確な把握に努めた^(註1)。そして教科書・用語集における原文の記述ができるだけ尊重しつつ検討した結果、最近の調査成果が反映されていない時代遅れの情報、明らかに誤った事実や不適切な記述が散見されることが明らかになった。検討班のメンバーは、これらの問題個所について、古代アメリカ学会役員会と会員と共にメール会議を通して検討し、修正案を練り上げた。今回の作業では教科書の記述内容に関する明らかな誤りを指摘することに重点を置いたが、将来的には質量共にさらなる書き直しをする必要がある。

本稿は、古代アメリカ学会の内外で情報の共有を図り、先コロンブス期アメリカ大陸に関する世界史教科書問題の改善を促進するために、2010年8月に教科書会社9社に送付した問題個所と修正案の一部を速報として報告するものである。紙面の都合上、2010年に高等学校「世界史B」を刊行した7社の教科書について問題個所と修正案を例示する。

2. 山川出版社『詳説世界史 改訂版』

本文の問題個所と修正案としては、たとえば「中央アメリカのメキシコ高原や南アメリカのアンデス高地では」ではなく「メソアメリカや南米アンデスでは」、「アメリカ大陸の都市文明としては、オルメカ文明が前1000年ころまでにメキシコ湾岸で成立し」ではなく「アメリカ大陸の文明としては、オルメカ文明が前1200年ころまでにメキシコ湾岸で成立し」、「中央アメリカのユカタン半島には、4世紀ころから9世紀にかけてマヤの都市国家が栄え、ピラミッド状の建築物、二十進法による数の表記法、精密な暦法、絵文字など」ではなく「ユカタン半島には、前6世紀から16世紀にかけてマヤ文明が栄え、ピラミッド型の神殿、二十進法による数の表記法、精密な暦法、マヤ文字など」、「前2世紀にテオティワカン文明がうまれた」ではなく「前1世紀にテオティワカン文明がうまれた」、「アンデス高地では、前1000年ころに北部にチャビン文化が成立して以降」ではなく「中央アンデスでは、前2500年ころに神殿が建てられて以降」、「インカの文明は、マチュ=ピチュの遺跡が」ではなく「インカ帝国は、マチュ=ピチュ遺跡が」、「国王（インカ）は太陽の化身とされた」ではなく「国王（インカ）は太陽の子とみなされた」などを指摘できる。また「青銅器は南アメリカのみ」いう記述は誤りであるので、削除すべきである。

カラーポジフィルム「テオティワカン遺跡の太陽のピラミッド」では、「1~2世紀にたてられたと考えられ、高さが60mをこえる中央アメリカで当時最大のピラミッドであった」ではなく「1~3世紀にたてられたと考えられ、高さが60mをこえるメキシコで当時最大のピラミッドであった」と記述すべきである。

3. 三省堂『世界史B 改訂版』

「インカ帝国の地図」は、「それまで地図を持たなかったインカ帝国ではじめて描かれた地図」とされているが、「インカ帝国滅亡後に、キリスト教徒に改宗させられた先住民が描いた地図」である。「地図 先住アメリカ人の文化」では、「ティアワナコ」と記されているが、「ティワナク」と記

すべきである。

本文の問題個所と修正案としては、「アメリカ大陸では前 5000 年ころからカボチャやトウモロコシの栽培とリヤマなどの飼育がはじまった」ではなく「アメリカ大陸では前 8000 年ころからヒヨウタン、後にカボチャやトウモロコシの栽培とリヤマなどの飼育がはじまった」、「前 1500 年ころからアメリカ大陸のメソアメリカ地域や中央アンデス地域にも文明社会とよびうる社会が成立した」ではなく「アメリカ大陸のメソアメリカ地域や中央アンデス地域にもそれぞれ前 2 千年紀や前 3 千年紀に文明社会とよびうる社会が成立した」、「アメリカ大陸の先住民は 2~3 万年前、ベーリング海峡が陸続きだった時代に」ではなく「アメリカ大陸の先住民は 1 万 2 千年以前、ベーリング海峡が陸続きだった時代に」、「北アメリカでは経済的には狩猟や漁労の状態にとどまり、比較的小規模の部族社会で、文化の発展も遅れたが、中・南アメリカにあたる地域では」ではなく「北アメリカの大部分では狩猟や漁労が行われ、比較的小規模の部族社会であった。一方メキシコ以南の地域では」、「メキシコ高原のメソアメリカ・ユカタン半島・アンデス高地は」ではなく「メキシコ高原やユカタン半島のメソアメリカ、南米アンデスは」、「メキシコ高原では紀元前 2~紀元 6 世紀にピラミッド型神殿で知られるテオティワカン文明」ではなく「メキシコ高原では紀元前 1~紀元 6 世紀にピラミッド型の神殿で知られるテオティワカン文明」、「ユカタン半島では 4~10 世紀に神殿、二十進法、絵文字や独自の暦をもつマヤ文明」ではなく「ユカタン半島では紀元前 6~紀元 16 世紀に神殿、二十進法、マヤ文字や独自の暦をもつマヤ文明」、「12 世紀にメキシコ高原に進出したアステカ族」ではなく「北方からメキシコ高原に進出したメシーカ（アステカ）人は」、「アステカは強力な軍事力をもとに神官を中心とする神權政治」ではなく「アステカ王国は強力な軍事力をもとに貴族を中心とする神權政治」、「アンデス高地でケチュア族が 15 世紀初頭までに建設したインカ帝国では、皇帝は太陽神の化身とされ」ではなく「南米アンデスで 15 世紀頃までに成立したインカ帝国では、皇帝は太陽の子とみなされ」、「アステカ文明やインカ文明は（中略）皇帝や神殿用の細工品には金・銀などの貴金属が豊富に使用されていた」ではなく「アステカやインカは（中略）支配層や神殿用の細工品には金・銀などの貴金属が使用されていた」、「1521 年にコルテスがメキシコ高原のアステカ帝国を滅ぼし、ついでスペイン軍は南アメリカに進出し、1533 年にはビサロがアンデス山地のインカ帝国を滅亡させた。アステカとインカの両帝国は有力な軍隊をもっていたが、スペインは先住民の内部対立をたくみに利用しながら、機動力にすぐれた騎兵と鉄砲などの火砲の威力で圧倒し、短期間で征服に成功した」ではなく「1521 年にコルテスがメキシコ高原のアステカ王国を滅ぼし、ついでスペイン軍は南アメリカに進出し、1533 年にはビサロが南米アンデスを支配したインカ帝国を滅亡させた。スペイン人は、機動力にすぐれた騎兵と鉄砲などの火砲を用いた。また先住民の内部対立に助けられ、短期間で征服に成功した」などが挙げられる。

写真「太陽のピラミッド」は、「前 2 世紀から後 6 世紀にかけてのテオティワカン文明を代表する」ではなく「前 1 世紀から後 6 世紀にかけてのテオティワカン文明を代表する」に修正すべきである。

4. 東京書籍『世界史 B』

本文の問題個所と修正案としては、「3 万年前、ベーリング海峡が陸続きであったころ」ではなく

「1万2千年前以前、ペーリング海峡が陸続きであったころ」、「のちにヨーロッパ人によってインディオ（インディアン）とよばれる人々」ではなく「のちにヨーロッパ人が誤解してインディオ（インディアン）と名付けた人々」、「馬やラクダなど大型獸は知られず、車両も利用されなかつたが、アンデスでは高地に強いリヤマ、アルパカなどが運搬に用いられた」ではなく「馬などの大型獸は知られず、車両も利用されなかつたが、アンデスでは高地に強いラクダ科動物のリヤマが運搬に用いられた」、「メキシコ高地とアンデス高地では、前1千年紀のはじめに神殿を中心とした都市建設がはじまり、その後、メキシコ高地、ユカタン半島、アンデス高地に生まれた諸文明は、複数の巨大石造都市をつぎつぎとつくりあげた」ではなく「メソアメリカと中央アンデスでは、それぞれ前2000年紀、前3000年紀までに神殿を中心とした社会がはじまり、その後、メソアメリカと中央アンデスに生まれた諸文明は、複数の巨大石造都市をつぎつぎとつくりあげた」、「アメリカ大陸で最初に農耕文化が発展したのは、メキシコ高原と中央アメリカ、それにアンデス高地の3か所であった」ではなく「アメリカ大陸で最初に農耕文化が発展したのは、メソアメリカと中央アンデスの2か所であった」、「温帯半乾燥のメキシコ高原のインディオたちは、前1500年ごろから夏作雑穀で乾燥に強いトウモロコシを栽培する独自な農耕文化を生み出し、定住社会をつくっていった」ではなく「温帯半乾燥のメキシコ高原の先住民たちは、前2000年紀から夏作雑穀で乾燥に強いトウモロコシを栽培する独自な農耕文化を生み出し、定住社会をつくっていった」、「前9世紀になると、メキシコ湾岸地域に（中略）聖獣ジャガーや聖鳥ケツアルを信仰するこの文明はオルメカ文明とよばれ、その後の中央アメリカ諸文明に大きな影響を与える」ではなく「前1200年になると、メキシコ湾岸地域に（中略）聖獣ジャガーや大蛇を信仰するこの文明はオルメカ文明とよばれ、その後のメソアメリカの諸文明に大きな影響を与える」、「このメキシコ高原の都市文明は中央アメリカのユカタン半島に伝わり、紀元前後ごろマヤ文明が成立した。マヤ文明では、絵文字で飾られた石造建築（中略）農業では、従来からの焼き畑だけでなく、灌溉をともなう定住農耕が行われていたと考えられている」ではなく「このメキシコ高原の都市文明に先立ち、ユカタン半島を中心に前6世紀ごろマヤ文明が成立した。マヤ文明では、マヤ文字や彫刻で飾られた石造建築（中略）農業では、従来からの焼き畑だけでなく、灌溉をともなう定住農耕が行われていた」、「このマヤ文明は、10世紀にメキシコ高原のトルテカ族の侵入によって滅んだ。これらメキシコ高原と中央アメリカの文明は、メソアメリカ文明と総称される」ではなく「このマヤ文明は、10世紀にメキシコ高原のトルテカ文明とも交流した。これらメキシコと中央アメリカの文明は、メソアメリカ文明と総称される」、「エクアドルやペルーなど温帯夏雨のアンデスの高地では、メキシコ高原からトウモロコシの栽培文化が伝わると定住化がすすみ、前10世紀には美しい土器をもつチャビン文化が成立した。この文化は紀元前後には、宗教的な色彩の濃い都市文明に発展し、各地に神殿がつくられた。その後、アンデス高地では大規模な灌溉設備がつくられ（中略）やがてティアワナコ文明の都市がアンデス高原一帯につくられた」ではなく「南米アンデスでは、メソアメリカからトウモロコシの栽培文化が伝わり、定住化、リヤマ、アルパカの家畜化がすすみ、前2500年頃から各地に神殿が建てられ、宗教的な色彩の濃い文明が発展した。その後、南米アンデスでは大規模な灌溉設備がつくられ（中略）やがてティワナクの祭祀建造物がアンデス高地につくられた」、「10世紀になると、メキシコ高原では、トルテカ族やチチメカ族が古典文明を継承して、新たな都市文明を発展させた。12世紀ごろこの地に移住してきた狩猟民のアステカ族は、諸都市を服属させてゆき、14世紀には現在のメキシコシティ

の地に首都テノチティランをつくり、王国を建てた。この王国は 16 世紀初頭には、メキシコ湾岸から太平洋岸までを支配下におさめるアステカ帝国に発展した」ではなく「10 世紀になると、メキシコ高原では、トルテカ人やチチメカ人が古典期の文明を継承して、新たな都市文明を発展させた。メシーカ（アステカ）人は、14 世紀には現在のメキシコ市の地に首都テノチティランをつくり、諸都市を服属させてゆき王国を建てた。この王国は 16 世紀初頭には、メキシコ湾岸から太平洋岸までを支配下におさめるアステカ王国に発展した」、「アンデス地方では、ティアワナコ文明ののち諸王国が抗争したが、ケチュア族がしだいに勢力を増し、15 世紀初頭には広大な地域を支配するインカ帝国を建設した。インカの王は太陽の子とみなされ、絶大な宗教的権力をふるった」ではなく「アンデス地方では、ワリやティワナクののち諸王国が抗争したが、インカがしだいに勢力を増し、15 世紀には広大な地域を支配するインカ帝国を建設した。インカの王は太陽の子とみなされ、絶大な権力をふるった」などである。

写真「テオティワカンの遺跡 中央奥の太陽のピラミッドを中心に巨大な神殿建造物がならぶ。太陽のピラミッドは太陽神をまつる高さ 65m の祭壇である」は、「テオティワカン遺跡 中央奥の太陽のピラミッドを中心に巨大な神殿建造物がならぶ。太陽のピラミッドは高さ 64m のピラミッドである」と記すべきである。

5. 実教出版『世界史 B 新訂版』

本文の問題個所と修正案としては、「完新世になって、メソアメリカと南アメリカ大陸西部の中央アンデスの二つの地域に」ではなく「完新世になって、メソアメリカと南米アンデスの二つの地域に」、「両地域では、前 1500 年ごろまでに主作物のトウモロコシやサツマイモ・ジャガイモ・キャッサバなどの根菜を栽培する農耕が確立し、前 1000 年ごろには大神殿（階段ピラミッドと神殿の複合建築）を中心に、都市文明が形成された」ではなく「アンデスでは、前 2500 年ころから各地に神殿が建てられた。両地域では、前 2000 年紀までに主作物のトウモロコシやサツマイモ・ジャガイモ・キャッサバなどの根菜を栽培する農耕が確立し、メソアメリカでは前 1200 年ごろにはピラミッド型の神殿を中心に、文明が形成された」、「神殿中心の文化のうち、メキシコ湾岸のタバスコ・ベラクルス地方では、絵文字・暦もうまれた。この都市文明はオルメカ文明とよばれ、その影響下に、紀元前後ごろから、テオティワカン文明とマヤ文明が発達した」ではなく「メキシコ湾岸のタバスコ・ベラクルス地方に成立した神殿中心の社会では、絵文字・暦もうまれた。この社会はオルメカ文明とよばれ、その影響下に、紀元前から、マヤ文明とテオティワカン文明が発達した」、「マヤ族はテオティワカン勢力におされ、活動の中心はグアテマラからユカタン半島に移ったが、文字・アーチ工法・天文観測などが発達した。10 世紀、この地にもトルテカ勢力が及んだ」ではなく「マヤ人はテオティワカン文明と交流し、ユカタン半島を中心に、文字・アーチ工法・天文観測などが発達した。10 世紀、マヤ人はトルテカ文明とも交流した」、「12 世紀に南下したアステカ（メシカ）族は、14 世紀、テノチティラン（現メキシコシティ）を都とし」ではなく「メシーカ（アステカ）人は、14 世紀、テノチティラン（現メキシコ市）を都とし」、「マヤ文明圏のユカタン半島には、1517 年にスペイン人が侵入し、15 世紀にメキシコ高原で発展したアステカ王国は、1521 年にスペイン人コルテスに征服された」ではなく「1428 年ころからメキシコ高原を中心に発展したアステカ

王国は、1521年にスペイン人コルテスに征服され、その後、マヤ文明圏のユカタン半島も征服された、「ペルー中央高地でも、前1000年ごろから、チャビン文明とよばれる初期都市文明が形成された。これが基礎となって、紀元1000年紀、中央アンデスで都市文明が開花し、8世紀から高地のティアワナコとワリが周辺に大きな影響を与えた。11世紀にチムー帝国が海岸部で成立し、14世紀には拡張はじめたが、15世紀なかごろから、高地南部のクスコを都にケチュア族のインカ帝国が発展した。アンデス一帯に勢威を及ぼし、太陽の子とされた王」ではなく「アンデスでも、前2500年ごろから、神殿が建てられた。その後、紀元600年ごろから高地のティワナクとワリが周辺に大きな影響を与え、中央アンデスで都市文明が開花した。10世紀にチムー王国が海岸部で成立し、12世紀には拡張はじめたが、15世紀なかごろから、高地南部のクスコを都にインカ帝国が発展した。アンデス一帯に勢威を及ぼし、太陽の子とみなされた王」、「帝國は、1530年ごろに王位継承問題で2分し、1532年に再統一されたが、翌年、スペイン人ピサロに征服された」ではなく「帝国内の王位継承をめぐって2分していた1532年、スペイン人ピサロが侵入し、翌年征服された」などを指摘できる。

カラーポストカードの「マチュピチュ（中略）標高2500mのアンデス山中」は「マチュ=ピチュ（中略）標高2400mのアンデス山中」、地図中の「ティアワナコ チムー帝国」は「ティワナク チムー王国」とそれぞれ記述すべきである。

6. 清水書院『高等学校世界史B』

本文の問題個所と修正案としては、「中央アメリカ中部では、天文学や暦法、象形文字などを備えたマヤ文明が栄えた。13世紀になると、メキシコ高地にアステカ王国が築かれた」ではなく「メソアメリカでは、天文学や暦法、マヤ文字などを備えたマヤ文明が栄えた。15世紀になると、メキシコ高地を中心にアステカ王国が築かれた」、「アンデス山地には、ペルーを中心にインカ帝国が栄え」ではなく「南米アンデスでは、クスコを中心にインカ帝国が栄え」などがある。

世界遺産写真では、「テオティワカン」（メキシコ）の「メキシコシティの北東約50kmのところに1世紀から7世紀ころ発達した都市。高さ65m、底辺225mの太陽のピラミッドや高さ46mの月のピラミッド」を「メキシコ市の北東約50kmのところに前1世紀から6世紀ころ発達した都市。高さ64m、底辺224mの太陽のピラミッドや高さ45mの月のピラミッドなど」に、「『空中都市』マチュピチュ（ペルー）：15世紀ころ、標高2,200mもある尾根につくられた都市で、先住民の言葉で「古い峰」の意味。わき水を利用した水道や石畳の道路が整備されていた。なぜこうした高地につくられたかは不明」を「マチュ・ピチュ遺跡（ペルー）：15世紀までに、標高2,400mもある尾根につくられた遺跡で、先住民の言葉で「古い峰」の意味。わき水を利用した水道や石畳の道路が整備されていた」にそれぞれ修正すべきである。

7. 第一学習社『高等学校改訂版世界史B』

本文の問題個所と修正案としては、「2万5千年前、アジア系の狩猟民が、当時、陸つきであつ

たベーリング海峡をわたって、アメリカ大陸へ移った。前1000年ころには、メキシコ高原や南アメリカのアンデス高地で、トウモロコシを主要作物とする農耕文化をつくりあげた。紀元後4世紀ころから、中央アメリカのユカタン半島でマヤ文明が栄えた。ここでは、ピラミッド風の神殿がたてられ、象形文字や太陽暦が使われ、数学も発達していた」ではなく「1万2千年前、モンゴロイド系の狩猟民が、当時、陸つきであったベーリング海峡をわたって、アメリカ大陸へ移った。南米アンデスでは前3000年紀から各地に神殿が建てられた。前2000年紀には、メソアメリカで、トウモロコシを主要作物とする農耕文化をつくりあげた。また紀元前6世紀ころから、ユカタン半島を中心にマヤ文明が栄えた。ここでは、ピラミッド型の神殿がたてられ、マヤ文字や太陽暦が使われ、数学も発達していた」、「アンデス高地では、15世紀にインカ帝国がクスコを都として繁栄していた。インカの皇帝は太陽と信じられて、絶対的な力をもち、神官や貴族を使って農民を支配した（中略）マヤやアステカと同様に青銅器を使った」ではなく「南米アンデスでは、15世紀にインカ帝国がクスコを都として繁栄していた。インカの皇帝は太陽の子とみなされて、絶対的な力をもち、各地の他民族集団を支配した（中略）メソアメリカと同様に青銅器を使った」などが挙げられる。

写真の「マチュピチュの遺跡（ペルー）（中略）標高2500mの天然の要害の地（中略）マチュピチュ歴史保護区＝世界遺産」は「マチュ・ピチュ遺跡」（ペルー）（中略）標高2400mの天然の要害の地（中略）マチュ・ピチュ歴史保護区＝世界遺産」を記すべきである。

8. 帝国書院『新詳 世界史B』

「世界史対照表」では、「インカ帝国は1150年頃に成立した」ことになっているが早すぎる。15世紀半ば頃に修正すべきである。また、この年表によれば、「インカはアステカよりも早く滅亡した」ように示されているが、これも修正されなければならない。

本文の問題個所と修正案としては、「最古の文明は、メソポタミア南部で成立し、やや遅れてナイル川、インダス川、黄河・長江などの大河流域でも同様に文明が成立した。またアメリカ大陸では、高原や山ろくに、独自の文明が生まれた」ではなく「最古の文明は、メソポタミア南部で成立し、やや遅れてナイル川、インダス川、黄河・長江などの大河流域でも同様に文明が成立した。またアメリカ大陸では、平野だけでなく高原や山ろくにも、独自の文明が生まれた」、「アメリカの伝統文明」ではなく「アメリカの諸文明」、「アメリカ大陸では、古くから独自の文明が栄えていた。しかし、大航海時代になって、ヨーロッパ人が来航すると、これらの文明は破壊される。ヨーロッパ人来航前の南北アメリカ大陸では「アメリカ古代文明」とよばれる先住民の文明が栄えた。とうもろこしの栽培を基盤として、精密で大規模な石づくりの建造物を残したが、馬や車輪はもたない文明であった」ではなく「アメリカ大陸では、古くから独自の諸文明が栄えていた。しかし、大航海時代になって、ヨーロッパ人が侵略すると、これらの文明は破壊される。ヨーロッパ人侵略前の南北アメリカ大陸では「アメリカ古代文明」とよばれる先住民の文明が栄えた。とうもろこし等の栽培を基盤として、精密で大規模な石づくりの建造物を残したが、馬や車輪はもたない文明であった」、「中央アメリカのメキシコ湾沿岸では、紀元前にオルメカ文明とよばれる文化圏が広範囲に成立した。前2世紀ごろから紀元後6世紀ごろにかけては、絵文字や石づくりのピラミッドを残したテオ

ティワカンが繁栄した。またユカタン半島を中心に、4世紀からはマヤ文明が栄えた。15世紀に分裂して衰えるまで、金属器は使われなかつたが、象形文字（マヤ文字）や太陽暦が用いられた」ではなく「メキシコ湾沿岸では、紀元前1200年にオルメカ文明が成立した。またユカタン半島を中心に、前6世紀からはマヤ文明が栄えた。16世紀まで、鉄器は使われなかつたが、マヤ文字や太陽暦が用いられた」、「14世紀から南米アンデスの高原都市クスコを中心に栄えたインカ帝国は、皇帝を太陽の化身（インカ）としてあがめていた（中略）キープ（結縄）とよばれる縄文字を使用したことでも知られている。最盛期には、人口600万以上をかぞえる大帝国であった」ではなく「15世紀から南米アンデスの高地都市クスコを中心に栄えたインカ帝国は、皇帝を太陽の子（インカ）としてあがめていた（中略）キープ（結縄）とよばれる記録・情報伝達の手段を持っていていたことも知られている。最盛期には、南北4000キロメートルを影響下においた大帝国であった」などを指摘できる。

写真では、「マチュ=ピチュの遺跡：インカ帝国の首都であったとされるクスコの北方に位置する。アンデス高地を中心としたインカ帝国のなかでも、とくにけわしい山にある都市遺跡」を「マチュ=ピチュ遺跡：インカ帝国の首都クスコの北方に位置する。中央アンデスを中心としたインカ帝国のなかでも、とくにけわしい山にある遺跡」を記述すべきである。

9. まとめ

歴史教育への貢献と研究成果の普及は、古代アメリカ学会と会員、そして全ての歴史研究者の重要な使命である。古代アメリカ学会の会員が次々と生み出す研究成果・学術情報を社会に十分に普及させて、知の再生産が効果的に行われるよう努めなければならない。長期的な展望に立って、アメリカ大陸と旧大陸の古代文明を対等に位置付け、よりグローバルな「眞の世界史」をきちんと教育する学習指導要領が策定されるように、古代アメリカ学会、研究者として文部科学省に働きかけていく必要がある。そして高等学校世界史教科書における先コロンブス期アメリカ大陸の記述が質量共に改善されるように、辛抱強く関わっていかなければならぬ。2010年の教科書会社への修正案の送付は、その第一歩である。

註

（註1）2010年に検討した高等学校世界史教科書は、山川出版社の『要説世界史 改訂版』、『現代の世界史 改訂版』、『世界の歴史 改訂版』、『詳説世界史 改訂版』、『高校世界史 改訂版』、『新世界史 改訂版』、三省堂の『世界史A 改訂版』、『世界史B 改訂版』、東京書籍の『世界史A』、『新選 世界史B』、『世界史B』、実教出版の『新版 世界史A』、『高校世界史B』、『世界史B 新訂版』、清水書院の『高等学校 世界史A 改訂版』、『高等学校世界史B』、第一学習社の『高等学校 世界史A』、『高等学校 改訂版 世界史A』、『高等学校 改訂版 世界史B』、帝国書院の『明解新世界史A 新訂版』、『新詳 世界史B』、桐原書店の『新世界史A』、一橋出版の『世界史A』の計9社の23冊である。世界史用語集については、山川出版社の『世界史B 用語集 改訂版』を精査して問題個所の修正案を作成した。井関睦美会員から、アステカを含むメキシコ高原に関する記述を修正する上で極めて有益なご指摘をいただいた。記して感謝申し上げます。

本稿は、平成 21-25 年度科学研究費補助金新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」（代表青山和夫）と平成 21-25 年度科学研究費補助金基盤研究（B）「マヤ文明の政治経済組織の通時的変化に関する基礎的研究」（代表青山和夫）の成果の一部である。

引用文献

青山和夫

- 2007 『古代メソアメリカ文明 マヤ・ティオティワカン・アステカ』 講談社選書メチエ。
2009 「マヤ文明における太陽と暦：『四大文明』だけではない『真の世界史』のために」『科学』
79(12): 92-95, 岩波書店.

青山和夫・古田栄人・坂井正人・井上幸孝・多々良穂

- 2009 「古代アメリカの学術情報の普及－高等学校世界史教科書問題、マスコミ報道の改善、研究成果の発信と還元－」『古代アメリカ』 12: 95-103.

多々良穂

- 2005 「高校生のマヤ・イメージとマヤ文明の授業実践」『歴史と地理』 589: 17-25, 山川出版社.

